

## 恵まれた死

ヨハネ 11:25-26 イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。私を信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるのか。」



私は去年 11 月 9 日に一度帰国しました。それは 11 日に行われる教会の宣教師派遣式に先立って、海外宣教委員会の面接日程に合わせるためでした。

私の義理の父は 10 月中旬以後、危篤の状況が続いていました。いつ死ぬかも分からないという連絡を受けて、私は一日一日胸が痛む思いがしていました。父は 10 年程前から教会に通っていました。しかし洗礼を受けることを堅く拒否していました。「自分は死んで天国に行くことより、自分の母と父に会わなければならない」と言いました。そうするなか、2 年前に洗礼は受けましたが、相変らず信仰は確かではなかったです。去る 9 月中旬から動けなくなり、床に横になって、私の妻が一月以上そばで看護していました。同時に、イエス・キリストを信じて天国へ行かなければならないと説得をしました。最後の瞬間まで病院に入院することを拒否し、少しの痛みを訴えること以外は落ち着いていたし、死ぬ直前まで意識ははっきりしていました。

私が 12 日に会いに訪ねた時、私を見て喜びました。その日私が、この世での最後の礼拝を導きました。その礼拝を捧げることができたのは、神戸ルーテル聖書学院の学生の祈り会でみなさんが一緒に祈ってくださったのを、神様が聞き入れてくださったのだと思い、感謝を申し上げます。

私はその礼拝の中で、父に対して、「キリストを救い主として信じていますか」そして、「天国へ行くことを確信していますか」と質問すると、はっきりと「信じています」と答えました。それで、私は、「イエス・キリストの御言葉のように死にません」と言いました。

人間の死は、すべての機会を奪い、裁きを前にした絶望感、今まで無為に過ごしてきた悔しさ、すべてのものを残して行かなければならない虚無感、地獄の苦痛に対する不吉な予感などを、一度に味わう惨めな経験です。

イエス・キリストの御言葉はこのような死を味わうことがないという意味です。イエス・キリストは死んだ人を見て「眠っている」と言いました。父は、いつか深い寝りに入りますが、目が覚めれば本当に素晴らしい所で、天使たちのお迎えを受けるでしょう。今までこの世の中で、両親

から愛され、子供たちはよく育って立派になった姿も見たし、教育者としてやりがいのある事をしたし、イエス・キリストを知って神様の愛が分かるようになったので、これ以上に求めるものはありません。後は、生命をくださった神様に感謝しながら、『神様、私の魂を受け入れ、後でイエス・キリストのように復活させてください』と言ってください、と勧めました。

父は私の話しをすべて聞き入れました。その礼拝と一緒に参加した母や私の妻の兄弟も慰めを受け、心の準備もしました。その礼拝を捧げて3日目、15日の朝7時頃に臨終になり、急に息が切れるようになりました。母が“ハレルヤ”を言いなさいというと、“ハレルヤ”言って死にました。まことに家族たちに良い姿を残して去っていきました。

韓国ではキリスト教式の葬儀が普通で、式場で声を出して泣くことは見られません。遺体を病院の霊安室に移して、施設の整った葬儀場を設けます。弔問客たちはいつでも自分の都合の良い時間に霊安室に入って弔意をあらわします。香をたく代わりに花を一輪霊前に置いて黙想するのが一般的です。弔問客たちに感謝を示した後、横の部屋では簡単な茶菓や食事を提供する施設もすべて揃っています。

牧師の司式で行う公式的な礼拝は、時間を決めてあらかじめ知らせます。臨終となった後「慰労礼拝」をささげ、遺体を丁重に棺に納める「入棺礼拝」をし、3日目に斎場を発つ時「出棺礼拝」、そして葬地(または火葬場)で棺を下ろす時「下棺礼拝」を、すべて順番に公式的な礼拝を捧げます。多くの場合、天国行くことを確信し、天国に見送る礼拝という心で手続きを踏みます。

日本に来て見ると、葬儀を悲しみの中で行うようです。社会慣習に合わせて、亡くなった聖徒たちを記念する行事と感じました。韓国は去る30年の間に死に対する概念がずいぶん変わりました。教会に通わない人々も、キリスト教式の葬儀を非難する人はいません。丁寧で品位があり、遺族たちが悲しみを乗り越えるために大変役に立つと認められています。

“イエス・キリストを信じる人々は永遠に死なない”と言うイエス・キリストの御言葉は、信者たちは死の苦い味を経験せず、死という通路を通じて永遠の命につながる旅に出ることだという意味です。みなさんも私も、将来、眠りに入るように、平安な終末を迎えることができるようにお祈りします。

(韓国ソウルのハレルヤ教会の宣教師、姜根培[カン・クンベ]先生の証し 2008-02-15)